

第7回水道ビジョン検討会 議事概要

1. 日 時：平成 16 年 2 月 12 日（木）14:00～16:00
2. 場 所：経済産業省別館 825 号会議室
3. 出席委員：
赤川委員、足立委員、飯嶋委員、伊藤委員、磐城委員、小笠原委員、小島委員、
末吉委員、藤原委員、古米委員、前田委員、眞柄委員、水谷委員、和田委員
4. 議事次第
 - (1) 第 6 回検討会の議事概要について
 - (2) 追加説明
 - ・財政計画の将来像について
 - ・水道料金について
 - (3) 水道ビジョン（第 1 案）について
 - (4) その他
5. 議事概要
 - (1) 第 6 回検討会の議事概要について
事務局から提出された資料について確認した。

以下の各議事において、事務局から提出された資料について説明、資料に関する質疑および議論がなされた。その主な意見は以下のとおりである。

- (2) 追加説明
 - ・水道料金設定の仕組みは理解しにくい面がある。減価償却費、企業債の扱いについてどのように整理するか考えるべき。
 - ・公衆衛生の向上という水道の役割からみれば、基本水量程度の水道使用がその向上に効果を生むのではないか。
- (3) 水道ビジョン（第 1 案）について
 - ・未普及対策は重要であり、水道ビジョンで施策提案できないか。
 - ・過度の取水が水循環に影響を与えており、「水道は自然の水循環を利用している」という意識を促すことが重要。
 - ・水源が上流にあれば良い水が得られるのではなく、健全な水循環の結果において良い水が得られることを強調するほうが良い。

- ・国際貢献では具体的な施策として何か打ち出せないか。
- ・CO₂削減として水道ビジョンで環境対策を提言できると良い。
- ・水質基準のあり方自体の見直しに関しても記述が欲しい。ヘルスリスクでは、基準値行政のあり方や種々発生するリスクへ対処するための考え方についての検討が望まれる。需要者ニーズの把握、リスクコミュニケーションの推進も重要である。
- ・水道は公共性が高く、価格政策にも触れたほうが良い。
- ・国際協力・海外援助に関して、日本の水道産業界が世界で活躍できるように、支援体制の整備が必要である。
- ・ユーザーの満足度と供給者側の意識に乖離があり、どこに具体的なターゲットを設定するのが問題である。
- ・水質の目標は、シビルミニマムとしての最低限でなく、これに+αしたところにターゲットが設定できないか。
- ・水道ビジョンの効果が判定できるように、統計情報をデジタル化して、インターネットで利用できるようにすべき。

(4) その他

- ・次回は3月16日（火）11:00～15:00
- ・本日の資料及び今後の検討方向に対する意見があれば、2月20日（金）までに事務局へ提出願いたい。